

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート (2026年9月)

■ 9月のパフォーマンス

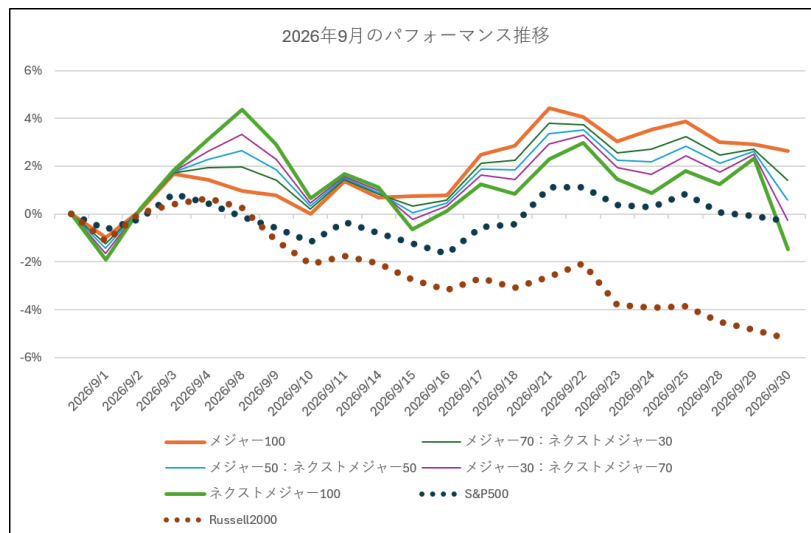
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+2.64 %
ネクストメジャー100	▲1.49%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	▲0.45%
Russell2000	▲5.40%
NY ダウ	▲4.29%
NASDAQ	+1.86%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	2.64%	S&P500	-0.45%	3.09%
2位	メジャー70: ネクストメジャー30	1.40%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	-1.93%	3.33%
3位	メジャー50: ネクストメジャー50	0.57%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	-2.92%	3.50%
4位	メジャー30: ネクストメジャー70	-0.25%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	-3.91%	3.66%
5位	ネクストメジャー100	-1.49%	Russel2000	-5.40%	3.91%
	全戦略平均	0.57%			3.50%

※各指標のベンチマークについて

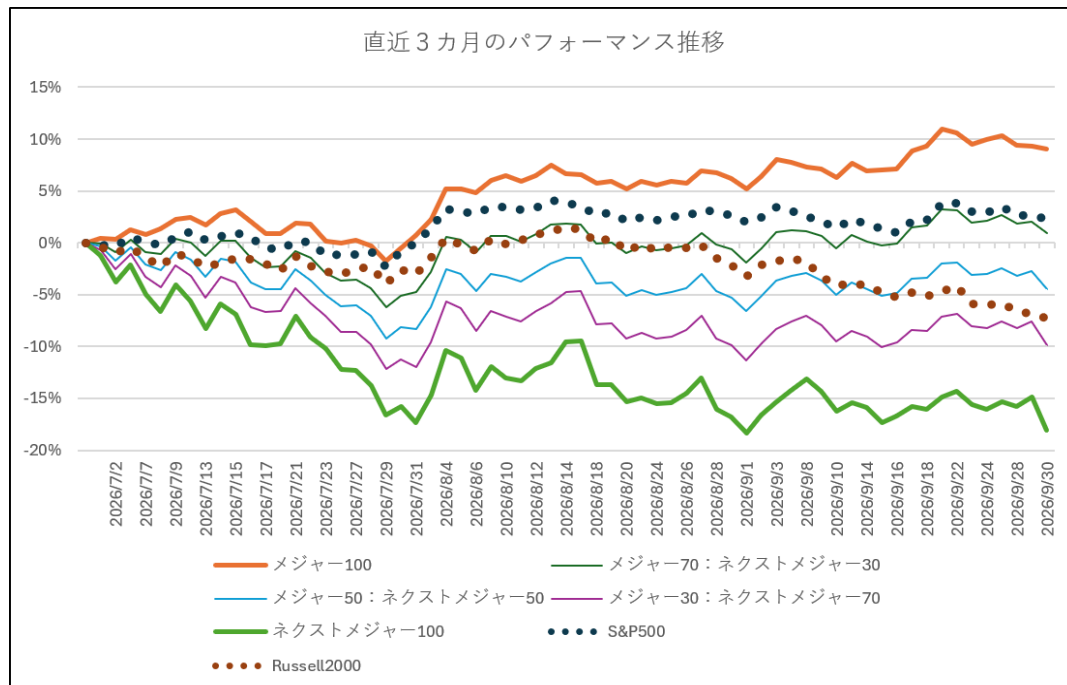
メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussell2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

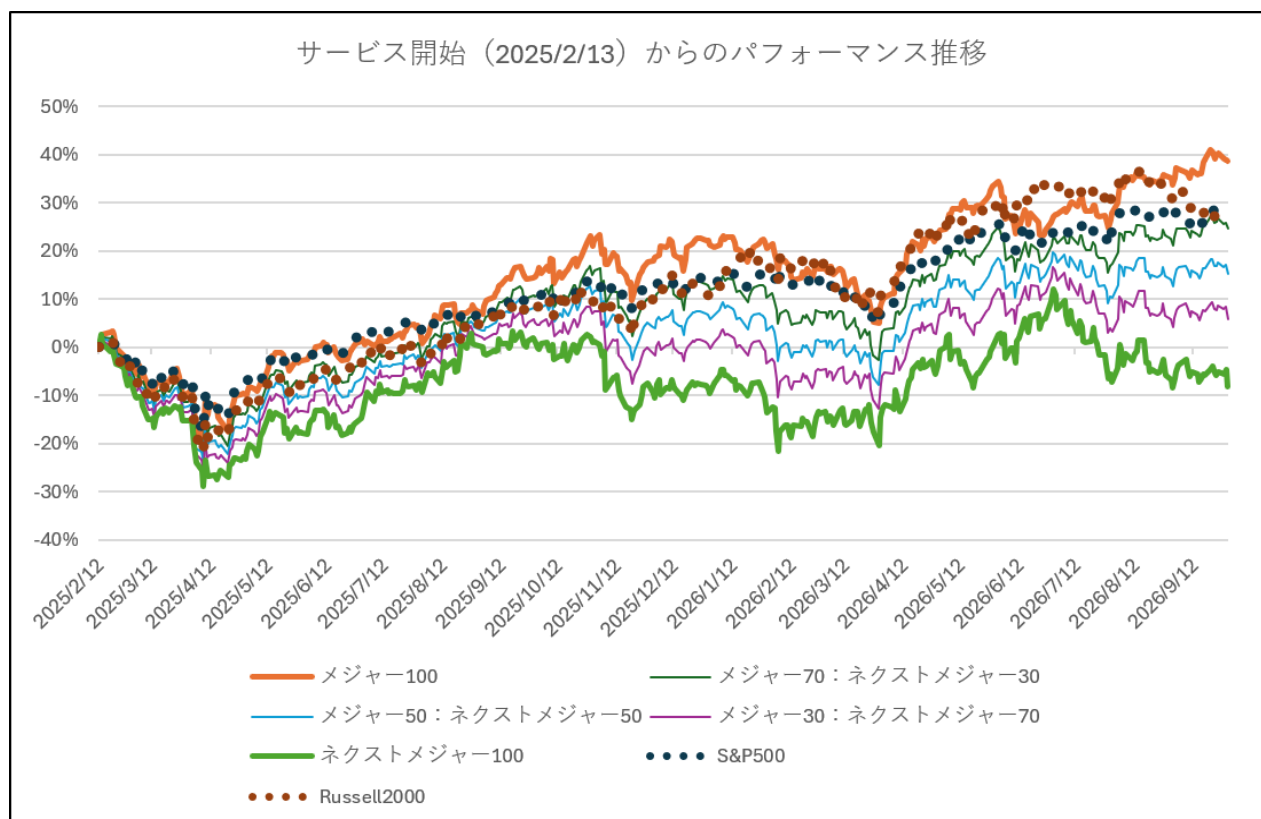
WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+2.64%、対ベンチマーク超過収益では+3.09%となり、ベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年9月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年9月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	2.64%	9.04%	27.59%	20.92%	38.60%	1.26	2.54
ネクストメジャー100	-1.49%	-18.03%	7.49%	-9.09%	-8.11%	0.34	0.49
S&P500	-0.45%	2.31%	17.65%	14.84%	26.91%	1.39	2.87
Russell2000	-5.40%	-7.24%	12.70%	15.51%	24.76%	0.81	1.45

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

■ 9月の市況概況

➤ 米国市場

9月の米国市場は、原油高に伴うインフレ再燃懸念と米10年債利回りの5.3%台到達という高金利環境が上値を抑える展開となりました。FRB（連邦準備制度理事会）による3年2ヶ月ぶりの追加利上げやAI開発の安全性を巡る規制・減速懸念がハイテク株の重荷となった一方、堅調な雇用・消費指標やNVIDIAの巨額自社株買いが下値を支え、神経質な往復修正が続きました。

・第1週（9月1日～9月4日）／ダウ平均：+0.43% S&P 500：+0.42% NASDAQ：+0.52%

地政学リスクと金利高で波乱、強い雇用統計で早期利上げ警戒

WTI原油先物が一時90ドル台へ急騰し米10年債利回りが一時4.8%へ上昇したことで、主要3指数は続落で始まりしました。FRB高官の据え置き示唆でダウが624ドル高と反発する場面もありましたが、8月雇用統計で非農業部門雇用者数が16万人増と予想（5.6万人増）を大幅超過し、早期利上げ警戒から主要3指数は反落しました。

・第2週（9月8日～9月11日）／ダウ平均：▲1.57% S&P 500：▲0.80% NASDAQ：▲0.66%

原油100ドル突破と10年債利回り上昇

中東情勢の緊迫で原油先物が約6週間ぶりの高値になり、さらに、8月の非農業部門雇用者数は+16.2万人で予想の約3倍となったことで利上げ観測が強まりました。これを受け、主要3指数は続落となりましたが、原油価格の落ち着きや、8月のCPI（消費者物価指数）が予想通りとなったこともあり週末は自律反発となりました。

・第3週（9月14日～9月18日）／ダウ平均：▲1.69% S&P 500：▲0.08% NASDAQ：+0.72%

FRBは3年2ヶ月ぶりの利上げ決定

主要AI企業トップの開発減速提言を受け、半導体需要の鈍化懸念からSOX指数が週初に急落しました。FRBはFOMCで0.25%の追加利上げ（3.75～4.00%）を全会一致で決定しました。タカ派姿勢の再確認と米10年債利回りの5%台定着が株価の重荷となりましたが、投資家は「FRBの独立性とインフレ抑制の姿勢の証拠」と前向きに受け止め、あく抜け感から反発しました。

・第4週（9月21日～9月25日）／ダウ平均：+0.28%、S&P 500：+1.21%、NASDAQ：+2.06%

米中首脳会談

FRB高官のタカ派発言や9月のPMI速報値の強さを受け10年債利回りが5.2%超へ上昇し、ダウは3日続落しました。米中首脳会談では関税休戦の2ヶ月延長で合意しました。週末はイランの条件付きホルムズ海峡解放提案に伴う原油下落と金利低下を好感し、ダウは478ドル高と4日ぶりに反発しました。

・第5週（9月28日～9月30日）／ダウ平均：▲1.78%、S&P 500：▲1.19%、NASDAQ：▲0.77%

長期金利5.3%台で続落も、マイクロン決算やGDP確定値が下支え

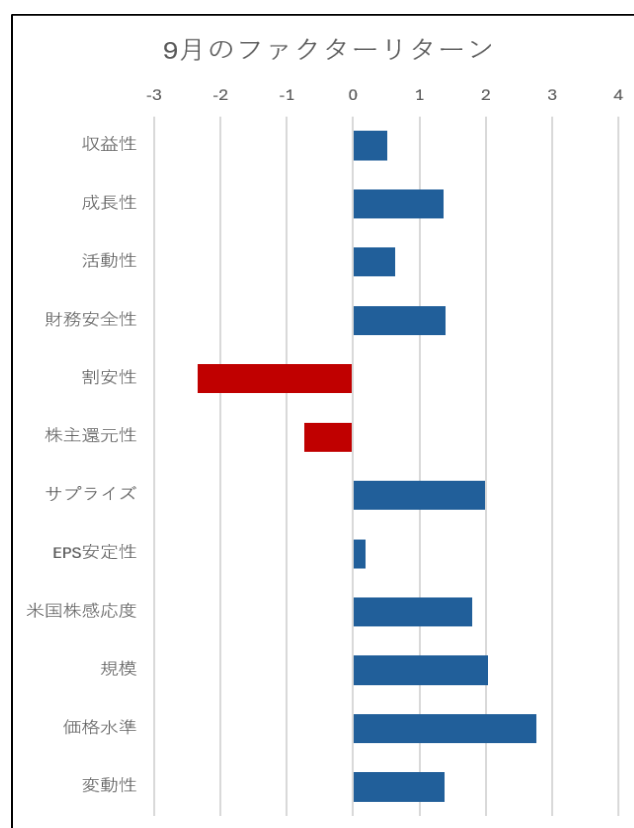
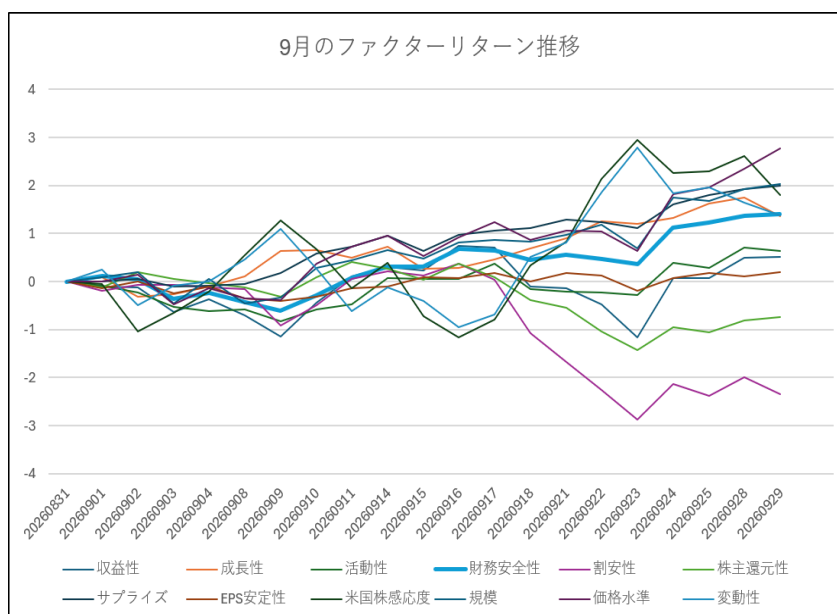
米10年債利回りが一時5.3%台へ上昇し9月の消費者信頼感指数が12年ぶり低水準へ悪化する中、ダウは3日続落しました。しかし、8月のPCEコアデフレーターは減速や4-6月期GDP確定値の上方修正、マイクロン・テクノロジーの好決算等が下値を支え、ナスダックは3日ぶりに反発しました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

9月は、ハイリスクの値嵩大型グロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、株価水準ファクター・規模ファクター・サプライズファクター・米国株感応度ファクター・変動性ファクター・成長性ファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクターが大きくマイナスとなり、AI企業のCEOが急速な開発の危険性を訴えたことでAI・半導体関連株が一時下落するも、マイクロン等の強い決算発表を受け急反発するなか、ハイリスクの値嵩大型グロース株へ資金が向かったことが見て取れます。



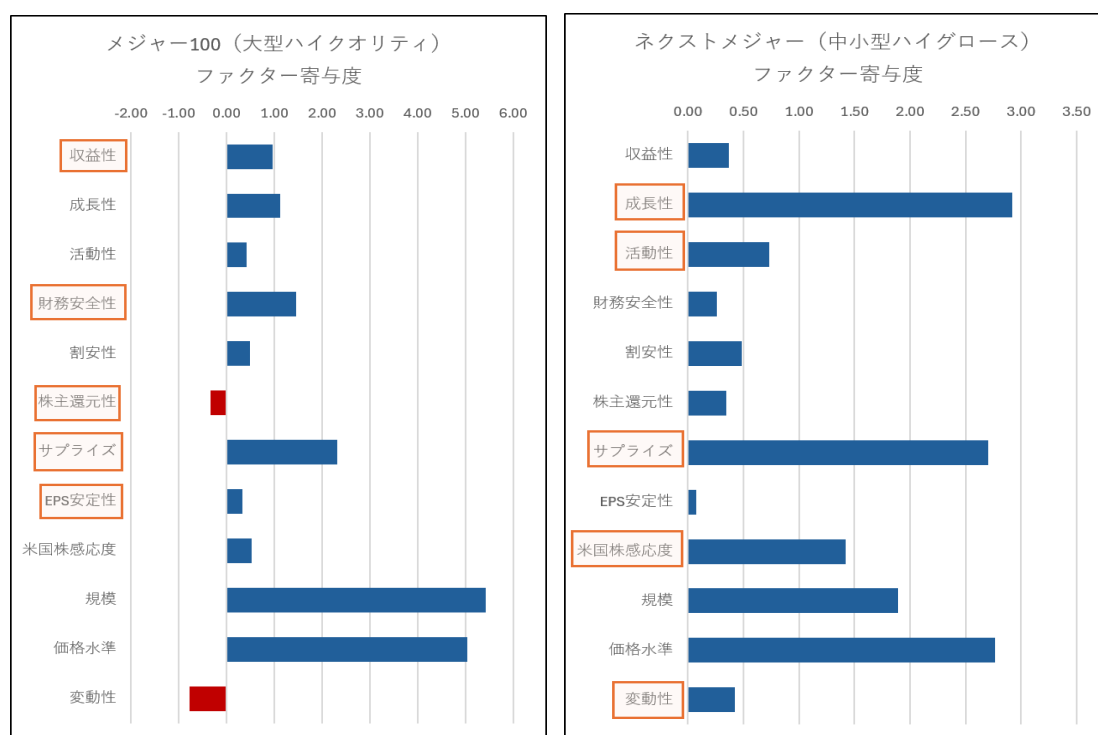
➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「好業績・財務健全」特性が大きくプラスに寄与、さらに、「市場平均よりもオーバーウエートとなっている米国株感応度（＝ハイベータ）・規模（＝大型株）・株価水準（＝値嵩株）」といった特性も大きくプラスに寄与したためです。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussell2000をアウトパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「高成長・好業績・高米国株感応度（＝ハイリスク）」特性がプラスに大きく寄与、さらに「市場平均よりもオーバーウエートとなっている株価水準（＝値嵩株）」特性もプラスに寄与したためです。

このように、ネクストメジャーポートフォリオのリスク特性部分では大きくプラスに寄与しましたが、一部銘柄が月末に特許侵害で訴えられ大幅下落した影響により絶対リターンはマイナスとなってしまいました。



9月中東情勢・金利動向・AI規制問題・経済指標等、それぞれで強弱が入り交じり、激しく上下する非常に神経質な市場となりました。

極めてハイリスクな相場環境が継続しておりますが、引き続き丁寧なリスク管理を行いながら、成長株をご提供してまいります。

➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	META	メタ・プラットフォームズ	5.0%	1.205%
	Facebook、Instagram、WhatsAppの運営、デジタル広告事業、オープンソースAI「Llama」シリーズの開発、および「Reality Labs」（VR/AR/スマートグラス）を展開。AIを活用したコンテンツ推薦や広告最適化が実効的な収益増をもたらしています。AIインフラ（データセンター・GPU）への巨額投資を継続しつつも、圧倒的なキャッシュ創出能力と自社株買い・配当による株主還元を両立させています。			
2	DELL	デル・テクノロジーズ	4.4%	0.738%
	PC、AIサーバー、データストレージ、およびITインフラソリューションを提供。エンタープライズ（企業向け）AI導入の波に乗り、NVIDIA等のGPUを搭載した「PowerEdge」AIサーバーの受注が極めて好調です。ストレージ需要の回復や、AI PCの普及に伴うPC買い替え需要も業績を強力に下支えています。AIサーバーにおけるトップクラスの納入実績と、企業向けITインフラ市場での強固な顧客基盤が評価されています。			
3	AAPL	アップル	10.6%	0.536%
	iPhone、Mac、iPad等のハードウェア製造・販売、およびサービス事業（App Store、Apple Pay、Apple Music等）。オンデバイスAI機能「Apple Intelligence」の世界的展開に伴い、新型デバイスへの買い替えサイクル（スーパーサイクル）が進行中。粗利率が極めて高いサービス部門の2桁成長が、部品コストの上昇を補い高利益率を維持しています。世界で高いシェアを持つ強固な稼働デバイス基盤と、高利益率なサービス事業の拡大が評価されています。			
4	NVDA	エヌビディア	10.6%	0.376%
	GPUおよびAIインフラ・プラットフォームの世界的リーダー。新世代アーキテクチャ「Blackwell」の本格出荷および次世代「Rubin」へのロードマップが順調に進展。主要クラウド事業者（ハイパースケーラー）からのAI計算リソース需要が依然として旺盛であり、データセンター部門の収益が全体を牽引しています。独自ソフトウェア環境「CUDA」を中心とした堅牢なエコシステムと高い競争優位性により、AIハードウェア市場の本命として極めて高い評価を維持しています。			
5	MU	マイクロン・テクノロジー	3.2%	0.344%
	DRAMおよびNANDフラッシュメモリの設計・製造。AIサーバーに不可欠な高帯域幅メモリ（HBM3E / HBM4）の需要が供給能力を上回っており、長期間の事前予約契約により高い稼働率を確保。メモリ価格の上昇と高付加価値製品へのシフトが劇的な利益率向上をもたらしています。AIインフラ拡大の直接的な恩恵を受ける半導体メモリのスーパーサイクル銘柄として評価されています。			

ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	RBRK	ループリック	9.6%	1.973%
	クラウドデータ管理およびサイバーレジリエンス（ランサムウェア対策・ゼロトラストデータ保護）SaaSの提供。サイバー攻撃からバックアップデータを守るソリューション需要が急増しており、ARR（年間経常収益）が大幅に拡大。損益分岐点を通過し、黒字化定着と高い売上成長率を同時に達成しています。データセキュリティ分野における高い成長性と、サイバーレジリエンス市場でのポジション確立が高く評価されています。			
2	SEI	ソラリス・エナジー・インフラストラクチャー	2.7%	0.913%
	石油・ガス掘削現場向けの設備自動化に加え、天然ガス駆動のモバイルタービン等を用いた「分散型電力ソリューション」を提供。AIデータセンターの急増に伴う電力不足を背景に、同社の即応型発電インフラ需要が急拡大。大手IT・データセンター事業者との長期電力供給契約が業績の新たな柱となっています。従来のエネルギーサービス企業から「AIデータセンター向け電力インフラの重要プロバイダー」へと評価が一変し、成長株として高い注目を集めています。			
3	AVT	アヴネット	7.7%	0.868%
	世界最大級のエレクトロニクス部品ディストリビューター（電子部品商社）。半導体や組み込みソリューション等のグローバル供給網を担う。産業機器や車載、AIデータセンター向けコンポーネントの在庫調整が一段落し、安定したキャッシュフローの創出と配当・自社株買いを通じた継続的な株主還元を行っています。健全な財務基盤と安定した配当利回り、割安感のあるバリュエーションが評価されています。			
4	AXTI	AXT	3.4%	0.828%
	インジウム・リン（InP）、ガリウム・ヒ素（GaAs）などの化合物半導体基板（ウェハ）の開発・製造。AIデータセンター内部の超高速通信（800G / 1.6T光トランシーバーやシリコンフォトニクス）に不可欠なInP基板の需要が急速に拡大しており、データ転送の光化（オプティカル接続）トレンドのキープレイヤーとして好調に推移しています。AIサーバー間的高速光接続需要の拡大に伴う中長期的な成長ポテンシャルが評価されています。			
5	KLIC	キューリック・アンド・ソファ・インダストリーズ	4.8%	0.787%
	半導体後工程（パッケージング・組み立て）用装置の大手メーカー。ワイヤボンダーに加え、先端パッケージング（Advanced Packaging）向け装置を展開。HBM（高帯域幅メモリ）の増産や3Dチップレット技術の採用拡大に伴い、同社の高度接合装置やTCB（サーモコンプレッション・ボンディング）技術への需要が急高まりを見せています。半導体製造の後工程における技術的優位性と、HBM・先端パッケージング市場の拡大による設備投資需要の恩恵を受ける銘柄として評価されています。			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

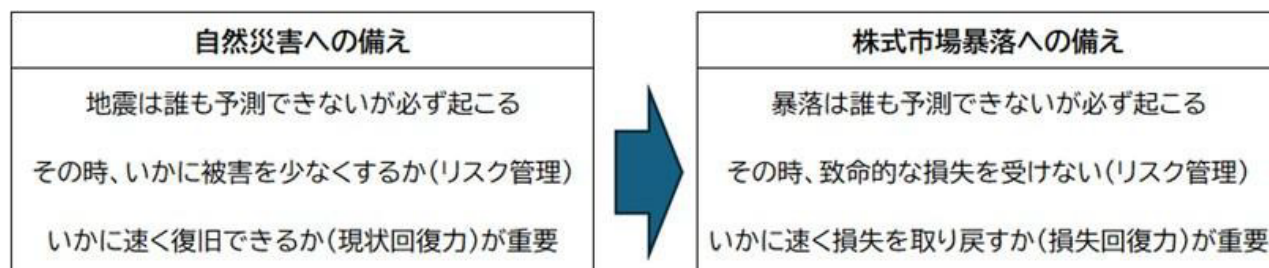
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

① 銘柄数を、20～25 銘柄としています

② 個別銘柄の組入比率は、原則として1銘柄当たり10%を上限の目安として運用しています。(ただし、株価変動等に伴い、組入比率が一時的に10%を超過する場合があります。その場合には、売買コストや市場動向、ポートフォリオ全体の状況等を勘案し、適宜リバランスを行います。1銘柄、10%以上保有しないようにしています) ③ 特定業種に偏重しないようにしています

④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています

⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年10月8日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- ・ 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- ・ 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- ・ 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスから提供される投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- ・ 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- ・ 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- ・ 入出金に係る手続き
- ・ 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- ・ 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- ・ 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Jトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(2)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会